

言葉マップを読解のまとめの活動に取り入れる

長岡市立与板小学校 教諭 平松 寛隆

1 本稿の趣旨

5年生の物語教材の実践である。この学年は、1年前のC R Tにおいて、国語の平均が全国平均よりすべての項目で上回っているが、「読む能力」が最も低く、さらに伸ばしたいという願いがある。

そこで、物語教材を指導する中で、言葉マップを利用することとした。一人一人の読みの深さがよく分かる方法であったので紹介する。

2 実践の趣旨

教科書の教材「父ちゃんの凧」は、5年生の4つの物語教材の3番目である。最後は音読を中心として進めていく「木竜うるし」であることから、「父ちゃんの凧」において、物語の読解で体験させたいことを集約させた。その一つは、自分で疑問に思ったことを解決していく「一人読み」による問題作り型の学習方法であり、もう一つが言葉マップによるまとめ活動である。

単元を展開していくと、何人もの児童から素晴らしい考えが発表される。教師はそれを認め、板書にまとめ、児童はノートにまとめていく。時には感想や分かったことをノートに書かせることもある。物語の場面ごとにそんな流れで読み取りが進んでいくのが私のいつもの授業であった。しかし、学習の最終段階で、どれだけの読み取りが個別になされているのか、確かめる必要があった。「父ちゃんの凧」という教材は、最終的に、登場人物「私」と「父」がどのような思いで「凧」とつながっているのかという点において、いかに読み取れるかが要であると考えたからである。そこで、言葉マップを利用し、「私」「父」「凧」とのつながりを考えさせることで、今までの読みをその一枚に集約させる活動を設定することとした。

3 実践の概要

①単元名 平和ってなんだろう「父ちゃんの凧」(小学5年生)

②単元のねらい

戦争の背景を考慮しながら、登場人物の気持ちを読み取り、友達と意見を交わしていく活動を通して、平和についての考えを深める。

付記：戦争教材であることから、当時の生活の様子や、日本と中国との関係を知らせる資料（時間の都合で中学校の教科書などから教師が作成したもの）も参考にしながら進めた。

③指導計画（全8時間）

視点	学 習 活 動	教師の働きかけ	評価規準			
			関	話	読	言
自己決定	1 漢字の読みを確認しながら教師の範読を聞く。	・適度に間を取ってゆっくり読む。 ・登場人物、場面展開の2点の観点を示す。それに基づき読み取ったことを発表させていく。	○			○
	2 物語のあらすじをつかむ。①					
追求	3 【一人読み】書き込みをしながら読む。疑問に思ったことは、ノートに書く。終わったら、疑問に対する答えを考える。②③	・一人読みの観点（前述）を提示する。 ・書き込む言葉が思いつかない場合、観 点の番号を書き込ませる。			○	
	4 グループになり、深めたい問題を話し合って絞り、発表する。④	・グループでの話し合いの手順を示し、全員が参加できるシステムを進める。		○	○	
	5 発表された学習課題について話し合	・戦争に関する資料を示して主体的に読		○	○	

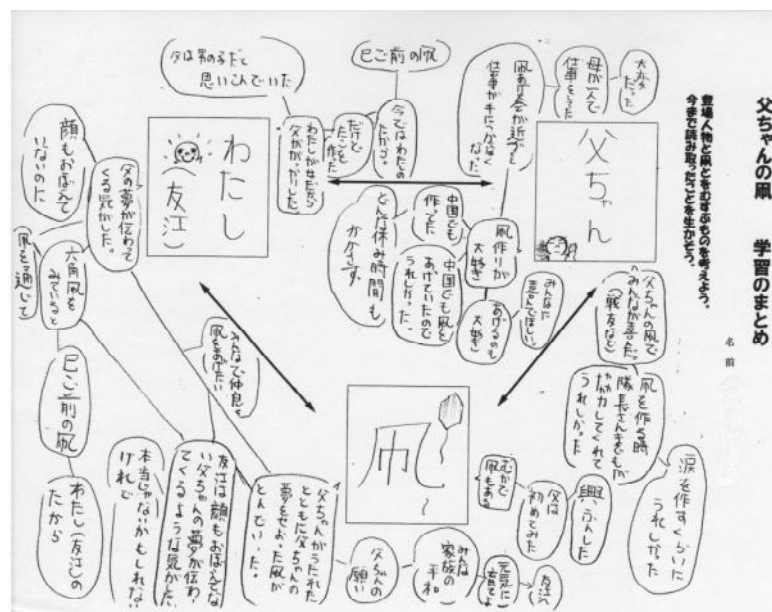
	う。 ⑤⑥⑦	ませ、背景をもとに考えを深めさせる。 ・児童の発言を元に、深く読み取らせた いことを教師が切り返し、投げかける。 ・課題に応じ、一人で考えたり、少人数 で考えるなど、学習形態に変化を持たせ る。 ・自分の読み取りの深まりをノートに記 録する時間を作る。				
実 感	6 この物語についての「凧」とは何か (平和の象徴)を考える。 7 単元全体を通しての感想を書く。 ⑧	・言葉マップの手法を提案し、「凧」「私」 「父ちゃん」との関係を図で表させる。 ・読みが深まったのはどの点か、それは どのようなときかについて触れさせ、学 習経験として記録させる。			○	

④授業の様子

戦争教材を提示したときには、そちらの方に夢中になってしまっていて、うまくテキストと結びつけることが難しかったが、物語の背景を知らせるのには有効だった。

言葉マップを書かせるときには、キーワードの「父ちゃん」「私」「凧」はあらかじめ設定しておき、その間を結ぶこと・気持ちを考えさせるようにした。指導に当たっては、まず教師側で、評価できる内容を考えておく。授業では半数ほどがその評価規準に乗ってこなかったもので、補助説明を出すタイミングをしっかりとつかめた。「父ちゃん」と「凧」とのつながりを思い出させて記述させることで、その「凧」を見つめる「私」の、「父ちゃん」に対する気持ちをまとめることがスムーズにできたと考えている。

(言葉マップの例)



4 考察

今回の実践では、言葉マップを試みたが、子どもたちにとっては、物語の構成をつかむために有効であったし、教師にとっても、子どもたちの読みを評価するのに有効だった。他の教材では、言葉マップの利用はまだやっていなかったのだが、教師の教材観により様々な可能性が期待できる。本単元では、「一人読み」を取り入れたので、学級の学習課題が絞られるまでに時間がかかったが、他の方法で、学習課題が早い段階で絞られたら、単元を通じて言葉マップに書き入れていく方法の方が、自分の読みの深まりなどをリアルにとらえることができると思う。この方法をさらに発展させ、これからの読む活動に生かしていきたい。